



はなのき

神坂小学校だより 特別号 2023.02.21



「かしこく なかよく たくましく」に向かって
～学校評価に係る保護者アンケート集計結果より(R4年度12月)～

校長 高橋 浩之

12月に学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。今後の神坂小学校の教育活動に生かしていきたいと思えます。(「効果が上がっている」をA・Bと捉えさせていただきます。)

今回、

・「効果が上がっている」90%以上……………2・3・6・8・10・16・17

・「効果が上がっている」80%以上……………1・5・7・9・18

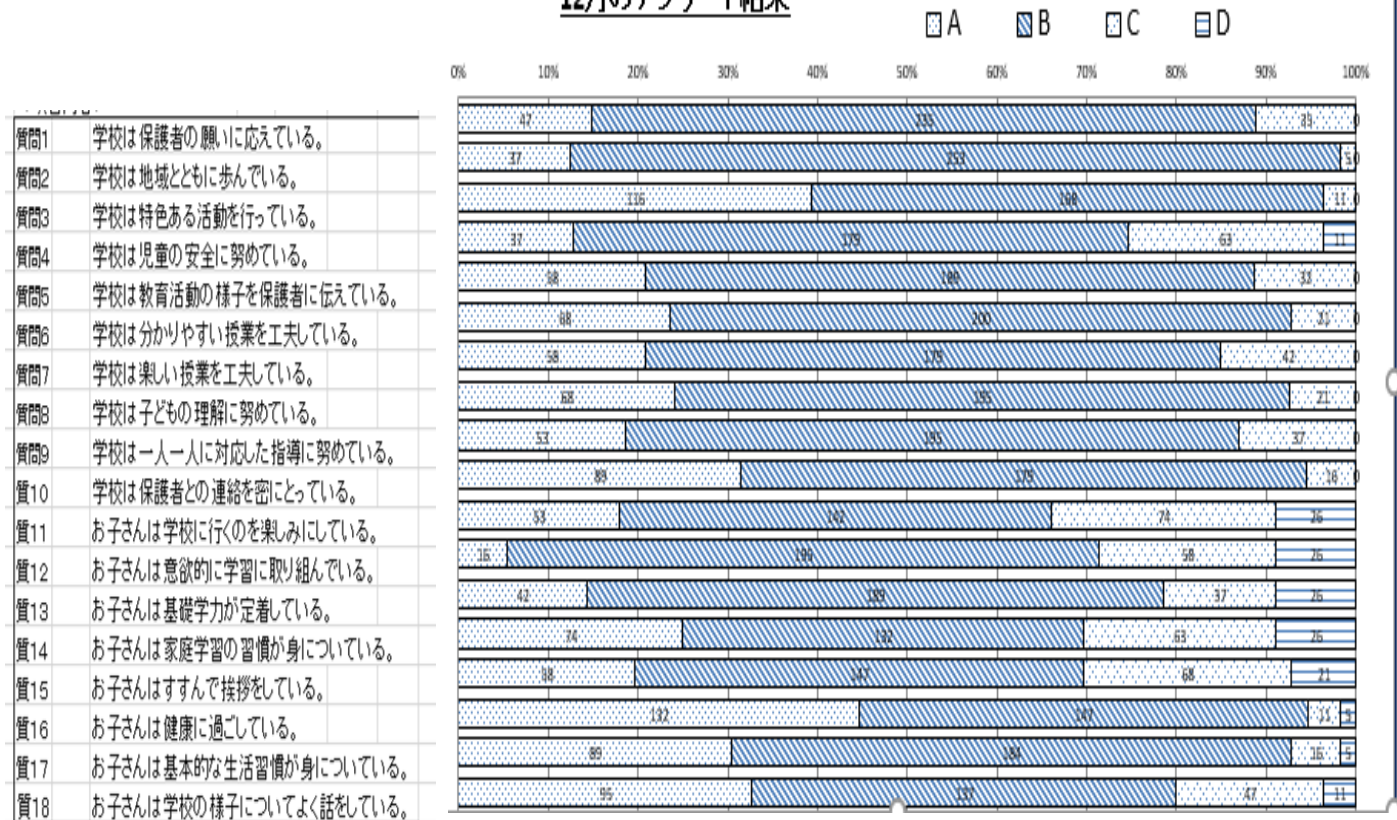
課題も明らかになっています。

・「効果が上がっている」80%未満……………4・11・12・13・14・15

全体として、昨年度に引き続き、「11・12・13・14・15」は80%を下回っています。その中でも、「11・15」は70%を下回りました。特に「15」は、全体の中で一番大きく前回よりもポイントが下回りました。

今回のアンケート結果を受けて、これらの課題に重点を置き、指導の工夫・改善を行ってまいります。そして、全職員で「かしこく なかよく たくましい」神坂小学校の児童を育成し、元気で笑顔のある学校づくりに努めていきます。

12月のアンケート結果



■次のように工夫・改善に取り組んでいきます■

アンケートの中で80%に満たない項目の中でも特に以下の項目に対して、さらに効果が上がるように、次のように取り組んでいきます。

○学校は児童の安全に努めている。(項目4)

→ 学校内では、刃物・薬品の管理を徹底して行っています。毎月安全点検を行い、学校敷地内の安全に努めています。危険と判断した場合には教育委員会に相談し、改善しております。登下校については、馬籠地区の登下校に心配を感じていらっしゃいます。問題を把握した場合には学校でもその都度、「どうしていくことが安全な登下校となるのか。」をそれぞれの学年、個人に応じて話しています。今後、児童数の減少に伴い、現

に行っているような登下校を維持していくことが困難になっていく可能性もあります。どのような場合にも保護者や地域と一緒に「児童の安全」を第一に考えて取り組んでいきます。

○学校に行くのを楽しみにしている(項目11)

→ コロナ禍の中、集団で物事に向かう活動が制限された時期が長く続きました。本来ならば、段階的に集団の中で培う力、コミュニケーションのとり方、仲間との活動の作り上げ方等を身に付けるはずだった時期が抜けてしまった部分もあります。制限緩和を受け、学校では段階的に集団で物事に取り組む活動を開始しています。その中で戸惑い、苛立ち、不安等を感じているのではないかと捉えています。小規模の学校の長所を生かし、段階的に途切れることのない、一人一人、学年に応じた指導、支援を行い、仲間と物事をつくりあげる喜びをもつことのできる教育活動を継続していきます。また、学習面においても個人に寄り添い、できたことを喜び、達成感を得ることのできる学習活動を行います。

○挨拶(項目15)

→ 今年度、登校の際に校門で立ち止まり「ありがとうございました。」と付いてきてくださった保護者や地域の方に向かってお礼を言う子達の姿がありました。又、今年度、多くの課外で行った教育活動の場面で「こんなに挨拶ができて素晴らしい。」「気持ちのよい挨拶ができる子達ですね。」等という言葉いただきました。校外学習で使うバスでも乗車・降車の度にお礼を言う子がほとんどです。感謝を伝えることができる子供たちです。今後も、相手意識を大切にしたい指導、声かけ、見届け、認めを広げていきたいと考えています。また、子供たち自身にも「地域での挨拶」について考えさせていきます。

■次のようなご意見・ご要望をいただきました■

Q19、「神坂小学校の教育活動」に対するご意見・ご要望をお寄せください。

- (教育活動かどうかは分かりませんが)子供たちの三味線が素晴らしいです!!これも指導して下さる先生方のおかげだなあと、誇りに思います!
- 長引くコロナですが、行事などいろいろ工夫して行ってくださっていることに感謝しております。
- 授業・子・保護者への対応 いつもありがとうございます。この学年ではこうあるべき 次の学年ではこうなるべき という分かりやすく子にも親にも教えていただき、感謝です。

温かい言葉をありがとうございます。これからも子供に寄り添い、子供の成長のために働きかけ、子供達の「よりよいひとりだち」のために、「かしこく なかよく たくましい」子供達になるよう努力してまいります。

- 低学年のみの下校時、「もうイヤダー。」と思うような事が多々あるようです。遊んでしまったり、列を乱したりと大変みたいです。

○通学路の工事の場所だけが不安です。

登下校は問題が起こる度に当事者同士で話し合ったり、通学班会を開いたりし、互いの気持ちを理解しあうように努めています。時には、学校の教職員が付き添って登下校の様子を見たり、子供達に話を聞いたりして安全な登下校ができるように努めてまいります。年々、児童数が減少していている現状から、今の登下校の形態、集合場所のままで継続していくことが難しくなることも考えられます。ご理解・ご協力をお願いすることもあると思います。その折にはお力をお貸しください。

- コロナに感染した時にも言いましたが、リモートでの授業が受けられるようにしてほしい。この3年間(コロナが始めてからの)何をしていたのか?今回これだけ学校で感染者が出て、1週間全員リモート授業にしていればこれほど感染者を出さなくて済んだのではないかと思います。

ICTの活用がすすみ、どのような場面でどのような活用をしていくことが有効なのか現在思案中です。リモート授業をすすめていくためにはどのような約束が必要なのか、どのアプリを使用することが効果的なのか。子供の力になる取組になるように今後考えてまいります。

- 一部の先生が子供に対する言葉遣いが悪いです。子供達にぼかぼか言葉を教える授業があるなか、先生がトゲトゲ言葉を使っているのは子供達も聞かないと思います。その言葉で子供が学校行きたくないと言うと困ります。

ご意見の通りだと思います。相手に対する思いやりある言動は子供だけでなく、皆に必要なものです。今後も相手を思いやった言動を行ってまいります。

- 他校との交流があるといいなと思います。

令和4年度、5年生が落合小学校の5年生とICTを使った交流を行いました。神坂小学校は、幼い時からお互いよくわかり合った仲間です。全く知らない人に何かを伝える経験が少ないです。全く知らない人に物を伝えるにはどうしたら良いかを考える力、そして、伝える力は神坂小学校の子供達だけでなく、全ての子供達に必要な力だと言われています。徐々に交流の機会をもつことができれば…。と考えています。